

令和7年度小平市立小平第四中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

ほとんどの区分で都や全国平均と比べて、高い正答率である。特に、読むことの区分では、都平均より2.1ポイント、全国平均より4.8ポイント高かった。

問題別で見えていくと、話すこと・聞くことについての問いと、書くことについての問いで、都や全国平均より低いものがあった。

平均を下回った問いを分析すると、論理の展開に注意して話の構成を工夫するという点において課題があるとわかった。また、「専門的」を「専門的」と正しい漢字に書き直すことができなかった生徒が、43.7ポイントに達したことがわかった。

学校で取り組む具体的な改善策

話すこと・聞くことだけでなく書くことにおいても、論理の展開に注意して内容を組み立てることは重要となる。授業では、考えた話す内容や書いた文章を、自分で見直したり、他者から助言をもらって推敲する活動を取り入れることにより、改善につながると考える。また、漢字についての知識も、日々の学習の積み重ねで身に付ける必要がある。そのために、定期的に漢字テストを行ったり、誤字の見直しを意識して行わせたりすることを実践する。

【数学】

状況の分析

課題

ほとんどの領域で都や全国平均と比べて、高い数値である。図形や関数の領域でその傾向が顕著である。

しかしデータの活用の領域、知識・技能については都の正答率を下回った。

「素数」や「相対度数」に項目が低い正答率になっている。学習してから時間がたち、あまり利用しない用語などを忘れていられる。

また、理由を説明する問題の回答率が低かった。物事を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が残った。

学校で取り組む具体的な改善策

定期的に履修事項の確認をしていく。

説明を考える機会を増やすことも必要である。考えさせたことをきちんと言葉に表し書くことの練習およびそれを発表する場面を増やしていきたい。

【理科】

状況の分析

課題

IRT スコアは、全国のコア（500）を 36 ポイント上回った。特に、実験やその考察に関して、知識、技能、判断力が問われる問題の正答率が高かった。一方で、基礎的な用語を答える問題で都や全国平均より低いものがあった。

化学分野では塩素の元素記号の正答率が低かった。また、消化酵素による分解と、化学物質の熱分解を対応させる問題の正答率がやや低く、異なる単元で学んだ事項を結びつけられるような思考力の向上が必要と考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

基礎的な事項の確認と復習を繰り返し行い、定着を図る。生徒同士での議論の時間をこれまでどおり確保し、互いに教えあうことで、それぞれの理解度を高められるよう授業を工夫する。その中で、科学的な事象ひとつひとつについて、身の回りの現象や、既習事項と結びつけて考察・探求につなげられるよう、生徒に考えさせる時間を十分に確保したい。

【質問紙】

状況の分析

課題

基本的な生活習慣の質問や、ICT 機器の活用についての質問において、都や全国の平均を上回る肯定的な結果が見られた。

「自分には、よいところがあると思いますか」と「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対して、否定的な解答をした生徒がやや多かった。

自分の長所を見つけられている生徒がいる一方で、まだ見つけられていない生徒が一定数いることがわかった。

友人関係や授業内での他者交流はうまくいっているようだが、学習面において課題を感じ、学校に行くのが楽しくないと感じている生徒がいるということがわかった。

学校で取り組む具体的な改善策

それぞれの生徒が長所を見つけられるよう、学級活動や行事などでよい働きをした生徒に対し、教員が声掛けをする意識をもつ。また、特別活動において、hyper-QUの結果を活用しながら、学級における自己肯定感を高められるような活動を実践する。

学習面でのつまづきを少しでも軽減させるため、授業でのICT機器の活用やグループ学習などを継続して実践していく。学習の課題に対しての登校しぶりが見られた場合、校内委員会で対応を検討し、生徒に合った支援を進めていく。